

森友之野藏物園

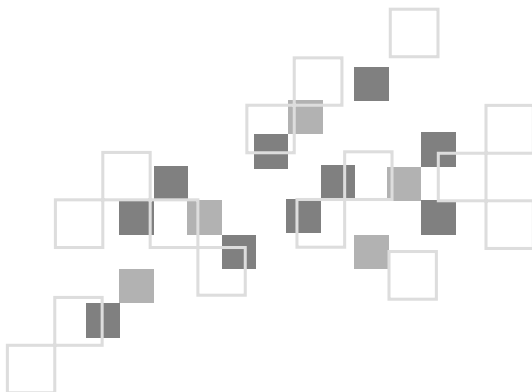
No.76



2021. 6. 1

機関紙「愛知腎臓財団」第76号（令和3年6月号）

1	巻頭言			
	臓器提供の再活性化に取り組む	3	
		公益財団法人愛知腎臓財団 副会長		
		JCHO中京病院 名誉院長 絹川 常郎		
2	「厚生労働大臣感謝状」を受賞して	5	
		藤田医科大学医学部 移植・再生医学講座 准教授 伊藤 泰平		
3	新型コロナウイルスワクチンへの期待とその後	6	
		藤田医科大学医学部 腎臓内科学 教授 坪井 直毅		
4	移植施設紹介 シリーズ第7回	7	
		名古屋大学医学部附属病院 泌尿器科 准教授 加藤 真史		
5	透析施設紹介			
	医療法人豊腎会 加茂クリニック	院長 鈴木 信吉	9
	医療法人厚仁会 城北クリニック	院長 中村 中	10
6	編集後記	12	



発行所 公益財団法人 愛知腎臓財団
 発行責任者 専務理事 加藤 昌弘
 所在地 名古屋市中区三の丸3-2-1
 愛知県東大手庁舎内
 TEL 052-962-6129
 FAX 052-962-1089

URL : <http://www.ai-jinzou.or.jp>
 e-mail : (事務) jimu@ai-jinzou.or.jp
 (コーディネーター) co@ai-jinzou.or.jp

臓器提供の再活性化に取り組み

公益財団法人愛知腎臓財団 副会長

JCHO中京病院 名誉院長 絹川 常郎



コロナ禍で多くの医療機関がコロナの診療以外の使命の達成に苦勞しています。そのような環境下、数は減っても各施設の努力で臓器提供は行われていますし、愛知腎臓財団は、透析医療の問題解決や、腎提供の機会を待つ方々のための継続的な仕事をしています。

私の愛知腎臓財団における役割は、2年前の巻頭言にも記載しましたように、腎移植の推進が中心です。日本の腎移植の臨床成績は世界のトップクラスですが、生体腎移植が中

心です。健康な方の腎機能を低下させるこの医療の問題は、いつの日か人工臓器で置き換えられることが期待されていますが、すぐには実現しそうにありません。新しい技術の導入までは、死後の臓器提供を増やすのが私共

に課せられた使命です。現在、日本臓器移植ネットワーク（以下JOT）に登録して待機中の約一五、〇〇〇名のすべての方々に献腎移植を行うには、七、五〇〇回の死後の臓器提供が必要です。臓器提供率が世界トップのスペインでは、1年に人口一〇〇万人あたり約40ドナーが得られます。人口約一億二、五〇〇万人の日本で同じ

比率でドナーが得られるとすれば、1年で五、〇〇〇ドナーとなり、腎臓はその倍の提供が得られるはずですが、待機中の3分の2の患者さんで、1年以内に移植が実現する事になります。しかし一〇〇万人に対し1ドナー以下の日本では全希望者への移植が完了するには約60年を要することになります。2年前に名古屋で開催された日本医学会総会の会長講演で、門田守人先生は、日本の子宮頸癌ワクチン接種者数と死後の臓器提供回数

の極端な少なさを示し、われわれはまともな医療を提供しているのかと問われました。私はこの言葉を重く受け止めました。内閣府の調査によると自分が脳死に陥った時臓器を提供しても良いと回答した人が最近40%を超えています。以前より随分進歩しました。地道な啓発活動のお陰でしょう。しかし、改正臓器移植法の施行後、脳死下提供機会は多少増えましたが、最近では横ばい状態です。臓器提供増加のためのもう一つの要素

である提供施設の体制整備はまだ限られた病院でしか整っていないようです。臓器提供を増加させるために欧米での優れた取り組みを元に開発された手法である「Donor Action Program(DAP)」を、日本にも導入するため、今から15年以上前に多くの関係者が努力しました。しかし、その活動の広がりや今は停滞しています。何とかしなければなりません。

ご存じのように、愛知腎臓財団はこれまで臓器提供に繋がるいくつかの事業を継続的に行ってきました。本稿では、最近始めた2つの取り組みをご紹介します。

1. 愛知県の救命救急センターを擁する病院の院長訪問

愛知県には25の救命救急センターを擁する救急病院があり、JOT発足後、臓器提供の87%がこれらの施設からとなっています。しかし、内訳を見ると、10回以上の提供実績があるのはわずか6施設だけで、2回以下の施設が半数を占めています。この不均衡を解消

するため、実績の低い施設ではDAPを用いた体制整備を進めなければなりません。これに必要な臓器提供への病院の積極的な方針を示せるのは病院長だけです。そこで、院長経験のある私が臓器移植コーディネーターと共に院長室を訪問し、院長の理解を得る活動を開始したところです。まだ訪問病院数はわずかですが、初めての院内コーディネーター任命に繋がったり、臓器移植コーディネーターの院内の関連会議への参加の障壁が解消されたりするなど成果を得つつあります。これまで提供の少なかった病院への訪問は年内に完了し、その後は次の活動で現場の活性化を図りたいと考えています。

2. 心停止後ドナーへの対応システム

法律改正後の脳死下ドナーの増加に伴い、心停止後ドナーの相対的減少はやむを得ません。しかし、ドナーやご家族の希望、あるいは施設の条件で心停止後提供しできない場合があります。提供総数が増えない現時点で

は、これらの症例は貴重です。かつて心停止ドナーの多かった愛知県でも、その経験を有する現場の医師は少なくなりつつあります。技術を継承し、貴重な症例に適切に対応できる体制づくりには、施設間の協力も必要となっています。そのため体制づくりについても最近、取り組みを始めたところです。

コロナ禍でもワクチン接種が遅れる理由を、過去にあつたわが国のワクチン行政の失敗に帰する専門家は多いようです。臓器提供の少なさも、日本が50年以上昔の心臓移植の問題を未だに引きずっているからかもしれません。その時代を知る私の世代は、世界水準から遅れた事で苦しむ患者さん達のために臓器提供推進活動を継続しなければなりません。2年後には、数字で示せる成果を機関紙に報告できればと考えています。皆様のご協力を願う次第です。

「厚生労働大臣感謝状」を受賞して

藤田医科大学医学部 移植・再生医学講座

准教授 伊藤 泰平



この度は、厚生労働大臣感謝状を賜りまし

たことを大変光栄に感じております。また、

ご推薦いただきました愛知腎臓財団に厚く御
礼を申し上げます。

移植医療は手術をする移植外科医のみなら
ず、内科医師、コーディネーターをはじめと
するたくさんの方のコミニカルのスタッフに支
えられ、はじめて実現する医療です。感謝状
にあります「臓器移植の普及啓発および移植
医療の普及・向上」はまさに当院の移植医療
に携わるスタッフ全員の努力の成果です。こ

の感謝状は私とともに、当院で行っておりま
す移植医療を支えてくれている全てのスタッ
フへの評価と労いを評していただいたものと
心より感謝申し上げます。

私は、一九九四年に国立筑波大学を卒業
後、千葉大学第二外科に入局しました。その
後、消化器外科医として修練を積み、二〇〇
四年に睥島移植の基礎研究のため、米国(U.S.)
of Hope National Medical Center/Beckmann
Research Instituteに留学しました。この時よ
り基礎研究と臨床としての移植医療に本格的
に携わることとなりました。帰国後の二〇〇
七年からは千葉東病院で、腎移植と睥移植の
臨床に従事し、二〇一二年に藤田医科大学病

院臓器移植科で勤務を開始しました。

藤田医科大学病院では、肺、肝、睥、腎移
植を行っております。当科は睥移植、腎移植
を行っており、睥移植は本邦で最も多い症例
数を実施しております。睥移植はインスリン
分泌不全の患者が対象となるため、本来はイ
ンスリン分泌細胞である睥島からの移植が低
侵襲で理想的です。当院にあらたに再生医療
センターが設立され、同センター内で睥島移
植を開始する準備を進めており、すでに日本
睥・睥島移植研究会の睥島移植実施施設の認
定を受けました。

このように我々の施設では、臓器不全の患
者様の命を救うための移植医療に力を入れて
おりますが、これはドナーの方からの善意の
臓器提供がなければ成り立たない医療となり
ます。藤田医科大学病院では臓器提供も積極
的に行っております。心停止後臓器提供は国
内で一位であり、脳死下臓器提供も国内で三
本の指に入ります。我々は十分に治療を尽く
しても、最終的には回復の見込みがなく、臓

器提供という崇高な意思を示されたドナーやドナー家族の希望に寄り添って、命をリレーするという臓器提供にも積極的に協力をしております。

このような臓器不全の患者様の命を救うための臓器提供から臓器移植にまで従事させていただいていることが、今回の感謝状を賜る理由だと考えております。冒頭にも述べましたが、この業績は私一人では成しえることは不可能で、たくさんの方のスタッフの力添えにより、達成されたものと考えております。今回の受賞はこれら多くのスタッフを代表し、私が拝受したものであり、大変光栄に思います。この医療を絶やすことなく、さらに発展させ次世代へと継承できるように、今後も本邦の移植医療の発展に微力ながら尽力するつもりでおります。今後とも皆様からのご支援やご指導を賜れますようお願い申し上げます。最後になりますが、この度は、厚生労働大臣感謝状をいただきましたことを改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルス

ワクチンへの期待とその後



藤田医科大学医学部 腎臓内科学

教授 坪井 直毅

二〇一九年十二月中国武漢での報告に端を発した新型コロナウイルスが、瞬く間に全世界に波及してから一年以上経過し、本邦では年末に迎えた第3波から、ものの三ヶ月で第4波が襲来しています。この間我々は、朝は

医療機関はその規模にかかわらず常に緊張を強いられています。社会が困難に対応する中で慢性化しつつある新型コロナウイルス感染拡大は、これ以上なす術はないのかもしれないという不安、これは何世代もが経験するいわば新しい時代の到来なのかもしれないという諦め、様々なインパクトを国民一人一人に与えています。

検温で始まり、外出時にはマスクをつけ、アクリル板越しに会話をし、常に手指消毒、対人接触を避ける新しい行動様式へ移行し、今ではコロナ禍以前の社会が夢のように思えるほどです。行政による緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発出の下、一時は感染者が減少に向かうもののまた次の波が押し寄せ、

その中で、新型コロナウイルスワクチンは、現在人々に希望をもたらす唯一の光です。二〇二一年二月にNew England Journal of Medicineに発表されたイスラエルにおける新型コロナウイルス集団接種の有効性に関する報告では、集団ワクチン接種が、COVID-19 PCR陽性者を92%、症候性COVID-19を

94%、COVID-19による入院を87%、重症COVID-19を92%抑制できたとしていす。発表から三ヶ月を経過した四月末には、イスラエル人口の54%が新型コロナウイルスワクチンの二回目接種を終え、数ヶ月前まで一万人を超えていた一日の新規感染者数は、現在一〇〇人前後にまで減少、COVID-19による死者ゼロとなる日もあるなど、人々が期待を抱くに十分な効果を示しています。私の所属施設では三月に一回目の集団接種が開始され、二回目の接種をほぼ終えております。しかしながら、今なおワクチン接種の機会が得られないまま、スタッフ一人一人が身体を張って診療に取り組んでおられる医療施設も多いときいています。ある程度コロナウイルスの知識がある医療者側でさえ不安ですから、重症化ハイリスク群である透析患者さんの不安とストレスも相当なものであると想像できます。一刻も早く、透析医療施設を含む全ての医療スタッフにワクチンが行き届き、医療者、患者双方安心のもとで治療が行えるように切に願います。

一方で、新型コロナウイルス接種後の医療

現場の問題に関しても目を向けねばなりません。ワクチン接種後の医療現場におけるコロナ対応策の継続期間などの指針は、そのもととなる臨床エビデンスの蓄積を待ってからのこととなります。また、新型コロナウイルス既感染者であっても、抗体価は三ヶ月程度で低下するとされ、加えてインフルエンザウイルスのような変異にも対応するため、定期的なワクチン接種が必要となる可能性が高いとされています。免疫力が低下した末期透析患者さんでの、ワクチン接種による抗体産生能と維持期間の検討から最良のワクチン種選択に至るまで、今後アカデミアに所属する医療

者、研究者が調査・研究すべき課題が山積みです。同時に、得られた結果を腎臓病・透析医療現場にフィードバックするスピードも必要とされることでしょう。長年にわたり腎臓病分野において医療者、患者、行政との連携を深め、慢性腎臓病（CKD）対策事業、臓器移植普及促進事業に実績のある愛知腎臓財団が、腎臓病患者の新型コロナウイルス感染へどう取り組み、貢献を果たすのか、財団に寄せる社会の期待は大きいと考えます。私自身も評議員として今後の財団の運営に微力ながら貢献していく所存でございます。

移植施設紹介

シリーズ 第七回

名古屋大学医学部附属病院



名古屋大学大学院医学系研究科

泌尿器科学教室 准教授 加藤 真史

名古屋大学医学部附属病院は名古屋市昭和

区にある鶴舞公園の道を挟んだ向かいに位置し、春になれば桜が咲き乱れる花見スポットが病棟の前に広がっており、JRおよび地下鉄鶴舞線の鶴舞駅下車徒歩数分の比較的便利な場所に位置しています。例年であれば花見客や酔っ払いでごった返している鶴舞公園ですが、本年はコロナ禍のため一部では入場が

制限され静かな春の訪れとなりました。名古屋大学附属病院は一、〇三五床の病床を

有し一般医療機関では実施することが難しい手術や先進医療・高度医療などを提供することが求められる特定機能病院に指定されています。ほかには愛知県の災害拠点病院であると共に、臨床研究中核病院・がんゲノム医療中核拠点病院など様々な顔をもち、国立大病院では初めて国際医療施設評価認証機関(JCI)の認証を取得しています。その歴史は古く、一八七一(明治四)年名古屋藩評定所跡に設置された公立の仮病院をその起源とします。名古屋大学医学部附属病院門及び外堀が登録有形文化財に指定されている点もその歴史を感じる部分でもあります。

移植医療として、心臓・肺・肝臓・腎臓・小腸各臓器の移植医療を受けることができる全国的にも限られた数少ない施設のひとつでもあり、近年複数の臓器を移植された患者さんが少しずつ増加しており移植医療センターとしての役割も担いつつあります。

名古屋大学泌尿器科における腎移植医療は、社会保険中京病院(現JCHO中京病院)で腎移植を立ち上げた大島伸一先生が教授として、一九九八年に生体腎移植が開始されたことにはじまりこれまで約一五〇例の生体腎移植および一六例の献腎移植が施行されています。JCHO中京病院・岡崎市民病院・小牧市民病院等含めた名古屋大学泌尿器科グループ全体での腎移植件数は一、二〇〇例を数えています。名古屋大学でも件数は少ないながら悪性腫瘍を除けば献腎移植は五年移植腎生着率100%としつかりした成績を残しています。生体腎移植もPre-emptiveを中心に少しずつ増加傾向にあり年間二〇件近くにのぼり、成績も直近五年では一年移植腎生着率100%、長期でも十年移植腎生着率は

90%に近い良好な成績をあげています。名古屋大学における腎移植医療の特徴として、泌尿器科および腎臓内科の二科共同で外科的および内科的にきめ細やかなフォローが行われている点があげられます。腎代替療法として腹膜透析手術にも泌尿器科が関与し、腹膜透析を経て腎移植を受ける患者さんが増加傾向にあります。他にも二人の移植コーディネーターが移植連携室に常駐しており移植患者さん専属のサポートを行っているのも心強いところです。当院は世界で最初に腎癌に対する腹腔鏡下腎摘除術を開始した施設のひとつであり、これまで既に八〇〇例以上の腹腔鏡下腎摘除術を経験し、生体腎移植ドナーの腹腔鏡下腎摘除と合わせると、その件数は一、〇〇〇例をこえ、安全で完成された手術手技も特徴のひとつとなっています。

最後に名古屋大学は移植医療の組織整備を推進することを総長自らかかげており、その膝元にある名古屋大学附属病院は移植医療の発展に今後も寄与できるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

透析施設紹介

加茂クリニック



医療法人豊腎会 加茂クリニック

院長 鈴木 信吉

加茂クリニックは一九七五年十月に私の母によって豊田市で創立され、二〇〇八年に現在の神田町に移転などを経て豊田市中心部で四十五年にわたりこの地域の腎不全医療に携わらせて頂いています。

豊田市の特性として人口40万都市で二〇〇五年四月に合併以後、市の面積が東海地方でも五番目の大きさになり山間部に生まれている方と市街地に生まれている方での生活習慣や介護介入、通院環境の違いが大きく、公共交通機関の使用困難な症例も多く見られません。送迎バス確保や車椅子送迎も準備をさせて頂いていますが、実際に送迎を使用して頂

いている患者さんの中にも片道25〜40キロ近くあり通院に30〜60分近くかかる方も少なくなく、エリアの広さに悩みを感じる事が多くあります。

豊腎会の本院である当クリニックの透析ベッドは93床で月水金、火木土コース共に昼間夜間コースの透析を実施しています。透析機器は日機装社の自動化対応コンソールを配備し、年齢や体型や生活習慣などに応じて、画一的な治療とならないよう必要症例に対してオンライン血液濾過透析や無酢酸透析など選択をできるようにしています。患者背景は日本透析学会などで提示されている傾向と同様に高齢化は進んでいて、糖尿病性腎症や腎硬化症が原疾患として多いため他の血管疾患合

併患者さんも多く、透析中の血行動態が不安定になりやすいため、バイオインピーダンス法を用いた体液量評価、B V計モニター使用し透析中の経時的評価を行い安定した管理ができるようにしています。栄養管理も過多／不足ともに起こり得ますが専属栄養士による栄養指導などで介入しています。透析治療中サービスとして無料テレビやWiFiの準備をさせて頂き少しでもストレスが減らせればと考えております。

当院と岩滝町の東加茂クリニック、東保見町の保見クリニックの三施設で連携を取りながら診療提供させて頂く中で常勤医に透析専門医、血管外科医が在籍し本院でシャント手術からPTAまでバスキュラーアクセス全般の管理を日曜日以外は常に対応できる体制を確立しています。豊田市近隣でシャントで悩まれる方も要望に応じて対応させて頂けますし、患者さんの希望に応じて名古屋血管外科クリニックに紹介させて頂き対応頂く事もあり、患者さんの選択を優先しています。また腎臓専門医、リウマチ専門医も常駐していますのでCKD保存期の管理やリウマチ、膠原

病疾患の管理も外来で対応する事が可能です。

高齢化や多疾患併存に伴いADL低下が想定しない中で進むケースも多く、在宅介護の調整目処が立つまでの間レスパイト入院も対応させて頂き、患者さん達の診療や介護の目処がなるべく豊田市内で完結できるように心がけています。サテライトクリニックのみでは対応が困難な患者さんも少なくなく、豊田厚生病院、トヨタ記念病院、愛知医科大学病院、藤田医科大学病院など専門性の高い基幹病院と連携をとり加療させて頂けている事は常より感謝致しております。



現在世界的蔓延をしている新型コロナウイルス

ルス感染症透析患者は日本透析学会より入院治療で対応する方針となっております。しかし情勢によって入院治療が可能な施設だけで対応が困難となりうる事も想定され、無症状者や軽症者の透析についても他の患者と動線も含めた隔離が可能な個室透析も新たに設置しています。非常時、緊急時だけではなくPCR検査特性などからその時点での偽陰性の問題や家族内で感染発症者が出現した場合に濃

厚接触が続き、ある一定期間を過ぎた後でも

発症を確認される患者も経験され、疑いの患者対応は疑いの程度に依じて振り分けをし先ほどの個室透析や時間的隔離透析を行うようにしています。完全を求める感染対応は難しいですができる事をやっというかと考えています。

今後もこの地域で医療を担う一員として努力を続けていきたいと考えていますので皆様の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

透析施設紹介

城北クリニック

医療法人厚仁会 城北クリニック

院長 中村 中

医療法人厚仁会城北クリニックは昭和四十九年八月に名古屋市北区地下鉄黒川駅近くに開院。平成二十三年八月に現在の黒川本通りに移転し、移転してから約十年になります。

午前夜間2クールで約一六〇名の患者様が通院しております。23時まで夜間透析をおこなっており仕事をしている方も安心して通院可能です。

10床の有床診療所であり、透析後気分が悪

くなった方、体調を崩された方、入院治療が必要な方、通院困難となった方にも対応できます。駐車場は一階に20台あり雨の日でもぬれないようにしてあります。

透析室は患者様が快適に過ごせるように工夫をしております。まぶしくないような間接照明、風がでない体に優しい空調設備、テレビ視聴は無料でWiFiも完備しておりインターネットもお楽しみいただけます。

管理栄養士も常駐し栄養指導も適宜行っております。

シャント管理は適宜エコー検査にてシャント管理し、PTAが必要な症例には自院にて治療いたします。困難な症例には名古屋血管外科とも連携し手術体制を整えております。

下肢の末梢動脈疾患の治療にも力を入れており、自院にてSPP、ABIなどの検査をし、異常あればすぐに名古屋ハートセンターなどの専門の病院にて治療施行しております。自院にてレオカーナなどの吸着型血液浄化も施行しております。

入院が必要な方には名古屋医療センター、名古屋市立大学医学部附属西部医療セン

ター、名城病院、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、名古屋市立大学病院、名古屋大学医学部附属病院など基幹病院と連携しており迅速な対応をしております。

災害対策にも力を入れており非常電源発動機や貯水槽を備えており、大規模災害に対する対策も行っております。定期的に災害訓練を行っております。

スタッフ体制は常勤医師2名、非常勤医師、臨床工学技士4名、臨床検査技師1名、看護師22名、看護助手11名、事務3名、管理栄養士2名、薬剤師1名のスタッフ50名にて日々診療に尽力しております。

今年新型コロナウイルスが流行し、当院でも感染対策に力をいれ現在のところコロナの感染はほぼ認めておりません。隔離ベッドも設けております。

超音波検査については心エコー、腹部エコー、頸動脈エコーを定期的に行い病気の早期発見に努めております。基幹病院にて定期的にCT検査を施行しております。

当院ではしっかり透析して元気に長生きしようを目標に他と違った透析治療に取り組ん

でおり、一番の特徴は高血流、長時間透析による高効率透析です。透析会誌などでも発表しておりますが、当院の血流量は平均400から420 ml/minと全国平均の約二倍から三倍、透析時間も平均時間は約五時間と長時間透析に



も積極的に取り組んでおります。

通常透析からオンラインHDF、i-HDFを適宜選択し最適な治療を選択しております。

透析液水質管理にも力をいれております。

高効率透析は実際に結果が出ており、患者様のQOLは非常に高く、皆さん元気にもりもり食べて元気に通院しております。当院では食事制限などは一切行っておりません。高効率透析施行することによりいつぱい食べて、いつぱい透析をするという方針です。死亡率も全国平均の約半分、また透析歴も有意に長く二十年以上の長期透析患者様の割合は全体の20%以上となり全国平均7.9%からすると驚異的に高い数値となっております。高効率透析のため当院では顔色が黒くなるような方も認めません。

穿刺時の痛みを軽減するのにも取り組んでおり、穿刺時にキシロカイン麻酔にて表面麻酔を行っており、穿刺時の痛みも少ないよう心がけております。

最後になりますが当院では患者様中心の透析治療、長期合併症などをなるべく出現させないように透析治療を施行しております。

心の通った治療を提供することを目標にしております。

患者様がお元気に安心して過ごしていただけるようスタッフ一同より一層努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。



編集後記

二〇二〇年六月号の編集後記で初めて新型コロナウイルスに触れた。わが国は現在その第4波の中にあつて愛知県も五月に入つて緊急事態宣言が発せられた。臓器提供にも大きな影響がみられ二〇二〇年の臓器提供者数は七八例(二〇一九年一二六例)と著明な減少が見られる。それでも愛知県は六例の提供(二〇一九年九例)と少なくとも提供数は、全国的には静岡県と並んで最も多い提供数であつた。コロナ禍にあつて多くの医療機関がコロナ対策に苦しむ中、コロナ対応をしながらの臓器提供あるいは移植医療の現場では並外れた苦勞があることは想像に難くなく、こうした実績を残した関係者の皆様の努力に大いに敬意を表したい。

巻頭言で絹川副会長は愛知県下の臓器提供の活性化に向けた取り組みとして自らが病院訪問を行う啓発活動を開始したことを述べている。地道ではあるがこのような活動は継続していくことにより着実に提供についての理解をより広げ、深めるものと期待できる。また心停止後の臓器提供にも対応すべく県下での体制づくりにも着手したこと、これにより臓器提供の可能性が一層高まることと考えられることから県下の移植医療機関の協力により適切に体制が整備されることに期待したい。

千葉県、米国、そして愛知県と広く、かつ長期にわたり移植医療への貢献により藤田医科大学の伊藤泰平先生に厚生労働大臣感謝状が贈呈された。心より祝意を表し、今後の益々の活躍に期待したい。

藤田医科大学の坪井直毅先生からコロナワクチンのレビューをしていただいた。わが国は先進国の中で最もワクチンの実施が遅れている。変異株が主流になるなど若干状況は変わりつつあるものの、ワクチンの効果は確実にあると考えられることから、わが国もしっかりとリーダーシップの下、速やかにワクチン実施体制を確立し、その普及に全力を挙げてほしいものである。今号の透析医療機関の紹介記事にあるように透析医療機関で行われているコロナ対策も職員の負担となっており、当然臓器提供あるいは移植医療の場となる病院でも同様である。医療崩壊を防ぎ新型コロナで停滞した臓器提供医療を回復させるためにも、ワクチンの普及及喫緊の課題と考える。

(T・F)